

ことばが遅い！？ 発音が気になる！？

子どもの発達には個人差がつきものです。特に幼児期の「ことば」は、生活環境や親子のコミュニケーションなど体験や経験の内容や量によって大きく左右されるため、どの程度遅れが見られたら介入すべきか迷うこともあると思います。しかし、保護者が気づき、相談を持ち掛けた時は一度きちんと評価したほうがよい時期なのかもしれません。安心を得るために受診を促すのも一つの方法です。

まずはきこえの確認をしましょう

「新スクをパスしたから大丈夫！」ではなく、ことばの発達が気になったその時点でのきこえを確認しましょう。過去の検査結果は「その時点では早期に介入が必要な状態ではなかった」ということであって、難聴ではない、難聴にならない保障があるわけではありません。また、先天性でも新スクをパスするタイプの難聴や、幼児期に発症する難聴、進行するタイプの難聴もあります。

こんなときは要注意

よくしゃべるけれど、
質問には答えられない

家では困らないのに、
園では、先生の話を聞
いていない

テレビの音が大きい
テレビの近くで見たがる

いつも自分のことはきちん
とできるのに、行事やイベン
トのときに限ってぐずる

すぐに手がでる、けんかになる。
理由を尋ねても答えられない

いつもキョロキョロしていて
落ち着きがない

勝手な思い込み、
勘違いが激しい

ワンテンポ遅れる
後出しが多い

難聴は「聞こえない」のではなく、「聞こえにくい」状態です。聞こえているときもあれば、周囲の状況によって聞こえなかったり聞き取れなかったりすることがあります。聞こえたことに安心するのではなく、聞こえなかった部分に気づいてあげることが大切です。

きこえに配慮した支援

先生は言ったつもりでも難聴がある子どもたちには伝わっていないことが多々あります。「ちゃんと聞いて！」と難聴児を責めるのではなく、周囲の大人がきちんと伝える工夫をしましょう。

- ・子どもの近くで話しかける。正面から、聞こえやすい側から話しかける。
- ・注目させてから話す。「話すよ、聞いてね。」という合図をしてから話す。
- ・周りが静かになってから話す。静かなところで話す。
- ・ことば（音声）だけでなく身振りやイラスト、文字も使う。
- ・説明したこと（日課や手順など）見える形で残す。

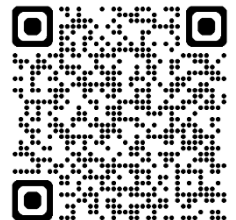
など

いっしょにあそぼ！ …… 幼稚部ひろば(3・4・5歳児対象)

幼稚部ってどんなところ？ 何をやっているの？

地域の幼稚園・保育園に通っている難聴児（3～5歳児）を対象に、本校幼稚部を体験できる機会を設定しました。一緒に遊んで、保護者同士もつながって、「なかま」を見つけてみませんか。

詳しくはホームページを御覧ください（QRコードからどうぞ→）。



次回 9月10日（木） 9時30分から11時まで
持ち物 上靴 水筒 帽子

今後の予定 10月23日（金） 11月16日（金） 12月17日（木）

難聴児担当者研修会

7月30日（木）

午前の部（9:00～11:30）

- ・難聴児のきこえ
- ・難聴疑似体験
- 補聴器、補聴援助システム
- ・難聴児への支援
（学校での支援・配慮）



午後の部（13:30～16:00）

- ・難聴児のきこえとことば
- ・難聴疑似体験
- 子どもたちの補聴器、人工内耳
- ・難聴児への支援
（ことばを育てる）

直前でも OK！
申込はこちら↓



園・学校等の先生方、行政機関からの申込を
いただいています。

詳細は6月10日付文書でお知らせしていま
す。不明な場合はお問い合わせください。

お問い合わせ先

静岡県立浜松聴覚特別支援学校

TEL：053-471-8197

担当：教頭または連携コーディネーター